

世界中で活躍する住友の林業機械。



KESLA Stroke Harvester
SH75X-6A 20SH mkII

KESLA Stroke Harvester
SH135X-7 25SH mkII

SHINYU BACK NUMBER

<p>森友 vol.10 仲山林業株式会社 岩手県 SH120-7 PONNSE H4 アブクマエコロジー有限会社 北海道 SH135X-7 KESLA25SH mkII 福島県 SH135X-7 IWAFUJI グラッブル 企業組合 山仕事創造会 静岡県 SH135X-7 KESLA25SH mkII 株式会社山崎木材市場 兵庫県 SH120-7 選木仕様 福岡県 SH135X-4 KET0150 株式会社トイ・ウッド 大分県 SH135X-6 NANSEI NPH-48</p>	<p>森友 vol.09 オホーツクバイオエナジー株式会社 北海道 SH135X-6 グラッブル 藤野広域森林組合 秋田県 SH135X-6 田中林業株式会社 東京都 SH75X-6AKESLA20SH 株式会社守岡林産 広島県 SH135X-6KETO 株式会社高知官材 高知県 SH135X-6 KESLA25SH</p>	<p>森友 vol.08 吉小牧バイオマス発電株式会社 北海道 SH250-6MH 株式会社 レンガルのニッケン 東京都 株式会社 ヨシカワ 石川県 八重中央森林組合 鳥取県 SH75X-6A 丸和林業グループ 山陰丸和林業株式会社 京都府 SH135X-6</p>	<p>森友 vol.07 齊藤興業 北海道 SH135X-4 気仙地方森林組合 秋田県 SH120-5 小田原緑化開発 群馬県 SH135X-6 白川町森林組合 岐阜県 SH135X-3B 丹波市森林組合 石川県 SH75X-3B 山崎商事 岡山県 SH125X-3 宮崎森林発電所 宮崎県 SH120-5</p>	<p>森友 vol.06 五島森林組合 長崎県 SH135X-3B 四万十町森林組合 高知県 SH75X-3B 飛騨高山森林組合 岐阜県 SH120-5</p>
<p>森友 vol.05 グリーン・シャイン 鳥取県 SH75X-3B 秋田グリーンサービス 秋田県 SH75X-3B つがる森林組合 青森県 SH135X-3B</p>	<p>森友 vol.04 山崎木材 広島県 SH135-3B 美山町森林組合 新潟県 SH135X-3B 群馬県森林組合連合会 / 群馬県 SH120LC-55M 北海道ニッパ 北海道 SH135X-3B</p>	<p>森友 vol.03 上野物産 鹿児島県 SH75X-3B 鹿児島市伊弉利森林組合 鹿児島県 SH135X-3 種子沢林業 山梨県 SH120-3 木材商秋田林業 秋田県 SH120-5 竹田木材 石川県 SH135X-3B よつばフォレスト / 浅野産業 北海道 SH135X-3B</p>	<p>森友 vol.02 津浦林業 鹿児島県 SH75X-3 松野地区木材協同組合 宮崎県 SH135X-3B 株父広域森林組合 埼玉県 SH75X-3B 西環林業 秋田県 SH200LC-55M 日和田林産 秋田県 SH135X-3 三井物産フォレスト 北海道 SH120-3</p>	<p>森友 vol.01 萬壽寺林業 鹿児島県 SH135X-3 美山村森林組合 和歌山県 SH75X-3B 三次地方森林組合 広島県 SH75X-3 一和木材 岩手県 SH120-3</p>

住友建機株式会社
〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1(ThinkPark Tower) ☎ 03-6737-2600
ホームページアドレス <http://www.sumitomokenki.co.jp>

Photo studio xiao 小西 徹 / 黒田 也
Design TYD design office 山川 達也
Rewrite Bauhausinc. 中村 得治

森友

SHINYU
vol.11

CONTENTS



井上産業株式会社
北海道
SH135X-7 WOODY 50



みちのくバイオエナジー株式会社
青森県
SH120LC-7MH MUR070 グラッブル
エレベーターキャブ仕様



有限会社 斎一林業
福島県
SH120-7 IWAFUJI GP-45A



有限会社西湘造林
神奈川県
SH75X-6A NANSEI グラッブル



竹上木材株式会社
和歌山県
SH135X-7 KESLA25RHmkII



隠岐島後森林組合
島根県
SH120-7 NANSEI スイングマーダ



有限会社 つしまエコサービス
長崎県
SH135X-7 IWAFUJI グラッブル

LINE UP

林業現場レポート
北海道からの今をお届けします。



井上 英雄 代表取締役

井上産業株式会社

本社所在地：北海道紋別郡遠軽町字田2丁目11番地3
電話：0158-42-5271
設立：昭和44年12月

井上産業株式会社が所在する紋別郡遠軽町は、北海道北東部オホーツク総合振興局管内の内陸の町である。人口は約20,000人。面積は約1,332km²で市町村として全国9位の広い町域だが、湧別川沿いの平地を除きその大半は山林である。

今回この地で父子三代にわたり、林業と製材業を営まれてきた井上産業株式会社の井上英雄代表取締役にお話を伺うことができた。

「井上産業株式会社は、昭和14年に父によって前身の井上産業社として創立されました。当初は丸太の仲買が主な業務でしたが、中湧別にいた伯父が鉛筆の軸板製造で成功し、それにならい遠軽で鉛筆の軸板工場を開設したのが昭和24年のことです。続いて、生田原に折箱用の経木工場を開設し、復興需要に応じて昭和28年には遠軽に製材工場を開設し建築用製材や広葉樹製材の生産を開始し、製材時に出るオガ屑を原料にして燃料用オガ炭工場を増設しました。当時この地域ではマカバ、ミズナラ、シナなどの広葉樹やクロエゾマツ、アカエゾマツ、トドマツ、イチイなどの針葉樹の天然林が広がり、産出される良質で豊富な木材資源を背景に事業を拡大していきました。高度成長期を迎えてからは製紙工場向けのチップ工場を昭和33年に増設し、住宅建築需要の高まりに



SH135X-6 グラップル

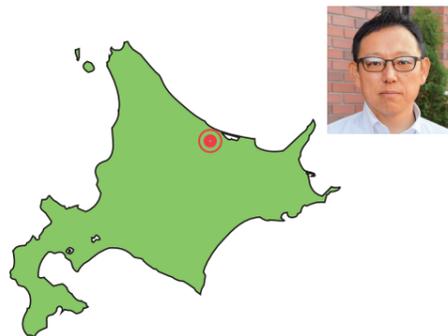
SH135X-7 ハーベスタ

伴い、遠軽以外にも旭川、滝上と木材が入りやすい土地に工場を開設し、立木を自社で造材して事業を行っていました。マイホームブームなど旺盛な国内需要に応え、遠軽に家具や内装材用のミズナラ、タモ、セン単板の突板工場も増設しました。ただ、広葉樹製材に関して、国内でのミズナラなどの高級家具用木材の需要は少なく、ベルギーなどのヨーロッパ諸国に輸出していました。そうして、事業は拡大したのですが、昭和60年頃から、北海道の豊かな天然林からの木材供給が徐々に減少し、原料確保のため外材の利用を始めました。もちろん当時から伐採後の植林はしていましたが、伐採のスピードは、樹木の成長よりずっと速かったわけです。

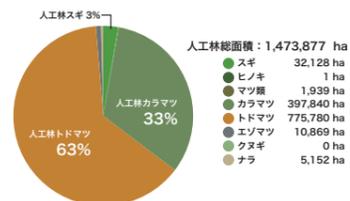
北海道は開拓からまだ150年ほどで、本州のように500年も1000年も民間で森林を守ってきた歴史はありません。北海道の森林のほとんどは国有林、道有林など公有林です。特に国有林からの安定供給が非常に重要なのですが、平成の中頃にはほとんど供給されなくなった時期があり、当時弊社が製材する木材はアメリカやカナダ、ロシアから輸入された外国産材になりました。国有林の立木販売もなくなり、造材事業者にとって厳しい時期でした。弊社は創業当初から、自社で立木を伐採して製品に加工するシステムをとっています。原料背景は、地元の天然林材、外国産材、戦後に植林された人工林材と変化し、現在は遠軽と滝上の2工場で創業しています。社員数は、山仕事14名、工場30名、土木10名の総勢54名、年間の素材生

産量は18,000m³です。高性能林業機械の導入は平成15年頃、戦後植林した人工林が伐期をむかえて、間伐するための条件に適応すべく導入を始めました。住友建機の機械を選定した理由はメンテナンス対応のスピードです。同業他社を含め、最寄りの営業所でも数百キロ離れており、機械の故障時に対応が遅れることが多々ある中、住友建機だけは、いつも迅速で誠実な対応してくれるので助かっています。弊社の将来の展望や目標は、私ではなく、次の世代の人が、その時代に即した対応をすればよいと思っています。企業は、利潤を追求するが、損をしないことを伸ばし小さな変化に対応し成長を続ける事が大切だと考えます。また、今日あるのは、国有林と王子製紙さんのお蔭と思っています。」

●レポート 北海道東北統括部 旭川支店 近藤 浩幸



北海道の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成29年度に実施した「森林資源実況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである (http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/02/) 引用法：林野庁 HP <http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/02/>

雄大な自然の恩恵に感謝して生きる

SH135X-7 ハーベスタ



後列左から 吉田 幸一さん、山下 暹さん、田丸 博士さん、村岡 治信さん、荒井 武美さん
前列左から 須藤 勝二さん、新海 秀敏さん、井上 英勝 専務、佐藤 由和さん、浜崎 淳さん。



社屋空撮



八田 堅嗣 代表取締役

みちのくバイオエナジー株式会社

本社所在地：青森県八戸市大字河原木字浜名谷地76番地370
電話：0178-20-7681
設立：平成26年10月

みちのくバイオエナジー株式会社が所在する八戸市は、本州最北端青森県の東に位置し、人口は約23万人で県内第2位、太平洋に向かって開く八戸港を中心としたベイエリアに大手の製紙工場や鉄鋼関係の工場などが立ち並び、県内屈指の工業都市として発展してきた。

同社は、平成26年10月に住友林業の100%出資により、昨年4月より隣接地で運転を開始した八戸バイオマス発電所の木質燃料供給を業務目的として設立された。八戸バイオマス発電所も、みちのくバイオエナジー社

と同時期に住友林業52%、住友大阪セメント30%、JR東日本18%の出資比率で設立され、バイオマス100%を燃料として12.4MW (12,400 kw)の発電規模を有している。

今回、みちのくバイオエナジー社の八田堅嗣代表取締役と、同社の設立当初から尽力された、葉勝億業務課長からお話を伺った。

「バイオマス発電所の開設にはいくつかの必要条件があり、その条件のどれひとつ欠けても開設は困難になってしまいます。この場所は、工業地域であり従来からの取引先の遊休地や隣接する八戸市の市有地などを併せて、発電所に適した近隣環境の比較的まとまった

広い土地が確保できたこと。工業用水や電気などの系統接続が容易だったこと。原材料になる木質資源が入手確保しやすいこと。原材料は基本的に地元の木質資源ですが、燃焼効率を高めるためPKS(パーム椰子殻)を輸入するので港湾が近いことなど。そのすべての条件をクリアした場所がここでした。現在、弊社から発電所へ供給している木質燃料は年間チップ9万t、パーク2万t、PKS2万tです。

集材エリアは、青森県内では八甲田山の東側、下北半島全域、岩手県の北部、だいたい100km 圏内。青森県の森林面積は約64万haで県土の66%を占めていますが、生産量はそれほど多くなく木質資源の生産余力がまだまだあると考えていましたが、近年周辺の発電所の開設などで、徐々に木質原料が不足はじめてきています。原料丸太は発電所に隣接する河原木事業地と20km ほど南に位置する南郷

事業地の2か所の生産拠点で4万tほどストックしていますが、枝葉や短尺材などの林地未利用木材の集荷推進とパークの燃料利用にも取り組んでいます。」

現在、同社には住友建機の機械を3台お使いいただいているが、その選定理由についてお尋ねした。

「SH135は導入当時から担当営業の方が詳細な情報を提供してくれた事と、土場で丸太のハンドリングをするのに必要十分な性能を備えていたので選びました。SH120LC-7MHのエレベーターキャブ仕様は、運転席が2.3mも上がり、腕も長く、弊社の希望する作業効率や安全性にあった機種なので選定しました。」

運営面でのご苦労をお聞きしたが「青森県の県民性なのでしょうか、この事業に際してお会いした方々、事業のパートナー

葉勝億 業務課長

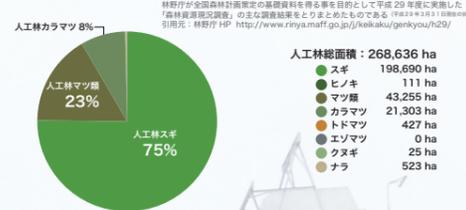


となった各社や関係各省庁の担当者の方、協力業者の社員の方まで、皆さん真面目で粘り強く誠実な方ばかりで、そのご助力には感謝するばかりです。私たちも、事業を通じて何となくこの地域に寄与、貢献したいと強く思っています。」

●レポート 北海道東北統括部 十和田営業所 中島 光広



青森県の樹種別計画対象森林面積割合



木と電気が共生するエネルギーで
未来を照らす

SH120LC-7MH エレベーターキャブ仕様

SH120LC-7MH エレベーターキャブ仕様

SH135X-6 グラッブル



材木に防雪用の
ロール紙をかける作業



SH120LC-7MH エレベーターキャブ仕様



後列左から 八田社長、葉業務課長、橋本 健治さん、土澤 義則さん、磯崎 好則さん、杉山 正弘さん、
前列左から 大久保 誠さん、小笠原 均さん、杉野 訓さん、西館 清さん



齋藤 一良 代表取締役
さいかず
有限会社齋一林業

本社所在地：福島県福島市小倉寺字敷ヶ森9番地-11
電話：024-523-4305
創業 昭和62年9月

有限会社齋一林業が所在する福島市は、福島県の北部に位置し、西は吾妻連峰、東は阿武隈高地に囲まれた盆地に広がり、福島県の県庁所在地で古くから福島県の経済の中心地として発展してきた。市の総面積は76,722ha、森林面積は61%の50,740ha(うち国有林30,545ha、民有林20,195ha)であるが、現在は原発事故の影響により、福島県内では森林整備や林業生産活動が停滞しており、森林整備と放射性物質対策を一体的に実施し、森林の有する多面的機能を維持しながら放射性物質の低減及び飛散防止を図るため、「ふくしま森林再生事業」が行われている。

今回、地元福島で林業一筋に50年歩んでこられ、有限会社齋一林業の創業者であり現在も現場の第一線で活躍されている齋藤一良 代表取締役にお話を伺うことができた。「高校を卒業してこの仕事に就いたのは、当時の林業は自分で頑張れば頑張っただけの高収入が得られる職業で、そこに魅力を感じたからです。また、初めから自分で会社を立ち上げることを

SH120-7 プロセッサー SH120-6 グラップルソー SH120-6 フェラーパンチャザウルスロボ



目標にしていました。

設立当初はチェーンソー数台で、福島県内や宮城県の県南地域での伐出請負が中心の事業展開でした。林業機械の導入は他社と比べてかなり早かったと思います。高性能機械が欲しくて35~6年前にグラップルを導入したのが最初です。思いつきで導入したわけではありませんが、当初は機械を100%稼働させることができず、機械を効率よく使い、生産性を向上させる独自の環境とシステムを構築していく必要性に気付き、実現に努力しました。トラックを買い、機械を導入し、人員を増やし、と徐々に会社を整備した結果、事業も順調に拡大し、請負中心の事業から自社での立木購入・素材販売へと移行し、現在は国有林、公有林を中心に事業展開しています。

弊社は設立当初から、造林の事業部門は持たず、素材生産に特化した事業展開をしており機械設備もそれに沿っています。社員数は13名、そのうち現場は11名、作業班としては2班構成で常時5現場を同時に施業して、昨年度の年間素材生産量は約30,000m³です。所有する高性能林業機械は、フェラーパンチャー5台、プロセッサー5台、グラップルソー3台、グラップル3台、フォワーダ7台の計23台です。住友建機の機械は合計9台所有しています。社員

数に比して機械の台数が多いですが、複数現場を効率よくこなすための手段です。また、弊社では4000時間以内を目処に早めに機械の入れ替えを行っています。機械はある一定期間を過ぎると頻繁に故障することから、修理による現場休止を最小限にするためです。今年度導入した住友建機製の新型機種はエンジンの燃費が良く、走行スピードも速く、オイルの流量も上がり従来機とは比較にならないくらい動きがスムーズで、作業効率が大幅に向上していると実感しています。性能の向上した新しい機械を入れることが効率アップに繋がると考えています。」今後について聞いてみたところ、弊社の今後の課題は技術の継承です。」と齋藤徳営総務課長が仰ります。「最前線で社長と専務が機械を操縦して作業班を率いているのが現状で、その経験や技術をまだ受け継いでいないことです。今後は、社長や専務が現役の間に、社内研修として技術継承の時間を設け、徐々に世代交代をしていきたいと考えております。また、将来的には利益の追求ばかりでなく、林業を通じて社会貢献できればと考えております。」

●レポート 北海道東北統括部 郡山支店 高橋 靖雄



丹治 正悟さん、佐藤 優樹さん、齋藤 一良 社長、川村 正信さん



齋藤 一也 専務、齋藤 辰也さん、大波 良弘さん、須田 正広さん



千葉 正秋さん、齋藤 徳営さん、齋藤 一良 社長、大宮 幸治さん

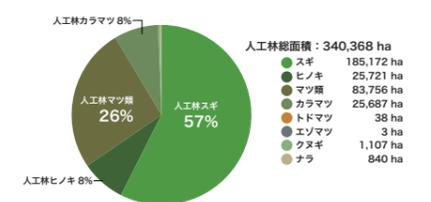


SH120-7 プロセッサー
合理的な
独自スタイルで
生産効率を
上げる

SH120-7 フェラーパンチャザウルスロボ



福島県の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目指して平成29年度に実施した「森林資源実況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。[平成30年3月1日現在] 引用元：林野庁 HP <http://www.rnrya.maff.go.jp/keikaku/genkyoku/h29/>





佐藤 克寿 代表取締役

有限会社西湘造林

本社所在地：神奈川県小田原市根府川658
電話：0465-29-0292
設立：平成16年

小田原市は、神奈川県西部に位置し、前に相模湾を眺め、西に箱根に連なる山地を背負っている。四季を通じて温暖な気候に恵まれ、戦国時代は北条氏の城下町として、江戸時代には東海道の重要な宿場町として、現在でも箱根観光の拠点として繁栄してきた西湘地区の中心的な都市である。

今回、西湘地区を代表する林業会社である有限会社西湘造林の佐藤克寿 代表取締役に取材の時間を割いていただくことができたが、インタビュー冒頭から今までにお会いしたことのない人柄や経歴に驚かされてしまった。「最初林業に就く気持ちはありませんでした。とにかく若い頃から日本中の色々な町で暮らすのが夢だったので、35歳になるまで定職には就かず、日本中を転々としていました。30歳から5年ほど岩手県で暮らしていて、次は九州の熊本あ

たりに行こうと職探しをしていたのですが、住み込みで働ける口を色々探したけれど全然雇ってもらえず、唯一神奈川県の林業会社が受け入れてくれて勤務することになりました。平成14年のことでした。元々神奈川出身なので望まずに故郷に戻ってしまったのです。まったく林業経験のなかったわたしが、その林業会社も4、5ヶ月働いた時点で訳もわからずに、退社させられて下請負として独立することになりました。それでも親方として技術も未熟で道具も揃っていない状態ががんばって仕事をしていると、出会った多くの人たちから応援していただくようになりました。いろいろな方にも助けられて、2年後の平成16年に法人登記し認定事業体になることができました。その後は社業も順調で、現在では社員も11名になりました。社員の平均年齢は40歳近いです。11名の社員のうち林業経験者は2名だけで、後の9名はまったくの未経験者です。業務の内訳は公共事業や役所の入札などと民間の素材生産が50%づつになります。昨年の素材生産高は約6,000㎥くらいでした。林業機械の導入は10年前、平成21年頃だったと思います。」

現在同社が所有する林業機械はSH75X-6Aを始め住友建機製のグラップルが4台その他プロセッサ1台、フォワーダ大小2台、タワーヤード1台、架線集材機1台、等々と充実している。あと運送用のグラップル付きトラックも数台所有されている。10年でかなりの充実ですが補助金などをうまく利用されているのですかという質問に。「3台は補助金を受けましたが、ほとん



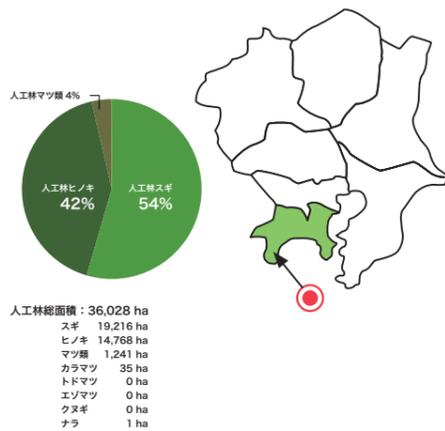
SH75X-6A グラップル

いろいろあったが、
今は24時間林業に
夢中です



8 左から 田中佳昭さん、立松高史さん、マリ、佐藤克寿 社長、荒川栄一さん、佐藤要さん、小幡清彦さん、菊地貴幸さん

神奈川県の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事として平成29年度に実施した「森林資源実況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。(平成30年3月1日現在) 引用先：林野庁HP <http://www.shyama.maff.go.jp/g/kaikaku/genkyou/h29/>



ど自己資金です。わたしは神奈川一給料の安い社長だと思っています。そのため会社の利益がでるので、毎年機械を買うようになりました。不思議に思われるかもしれませんが、欲しいものが何もありません。ずっと作業着で過ごしているので服も要らないし、足元もずっとサンダルしか履かないので靴もいりません。食事も自炊していますが、作るのも食べるのも面倒で、一日一回飲むだけで生きていけるカプセルが出来たら助かるなと思っています。酒も飲まないし、趣味も特にありません。24時間仕事のことだけ考えています。結婚でもして子

どもがいたら、また違っていたかもしれませんが、今は仕事以外何も興味が無い状態です。社員の給料も毎月はそれなりの額ですが、賞与を年3回支給していますし、3月の決算時にお金が余っていたら、できるだけ社員に還元しています。将来の目標は、公共事業に頼らない安定的仕事を得ることと、従業員みんなに、自分たちで伐採した木で家を立ててやりたいと思っています。」

●レポート 関東甲信越統括部 森野営業所 大野 卓也





大江 一美 代表理事組合長

隠岐島後森林組合

所在地：島根県隠岐郡隠岐の島町池田風呂前65-1
電話 08512-2-0493
設立 昭和58年7月

隠岐島は、島根県の北東約50kmの日本海中に位置し、4つの主島と180余りの小島から構成されている群島である。島は大別して島前（どうぜん）島後（どうご）と称し、島前は知夫里島（知夫村）、西ノ島（西ノ島町）、中ノ島（海士町）からなり、島後（隠岐の島町）は島前の北東18kmに位置する、隠岐群島中最大の島である。

隠岐島後森林組合は、昭和58年に島後の旧布施村、旧五箇村、旧都万村、旧西郷町の4町村にあった森林組合を業務の効率化を図るため、島根県で最初に広域合併し設立された森林組合である。島根県下ではその後各地域で広域合併が進み、現在13の森林組合に集約されている。

島後の島内面積は、約242km²、人口は約14,000人。島内の主な産業は、農

隠岐の明日の 林業の確かな 担い手として

SH120-7 スイングヤーダ



業、林業、漁業、観光業などであり、林業は古くから旧布施村を中心に盛んで、その森林面積は、島内面積の約80%を占めている。樹種は海岸部のマツを除き、ほとんどがスギである。

今回、平成21年に同組合の代表理事組合長の重責に就かれて以来、積極的に高性能林業機械の導入や事業の効率化を推進されてきた、大江一美組合長にお話を伺った。

「まず隠岐島後森林組合の概要からお話ししますと、組合員数は約1,200名、組合職員は25名、そのうち18名が現場技能者です。職員の平均年齢は40歳。その大半が島根県の林業大学を卒業した優秀なスタッフです。年間の木材生産量は前年度で約7,000m³。その7,000m³のうち6,000m³が皆伐で、面積にすると10～15haになります。

木材の出荷先は島内2,000m³、島外5,000m³の割合です。島根県では皆伐から再造林への一貫施策が奨励されており、県内の組合の中で先駆けて施策する体制を作ってきました。平成25年からコンテナ苗生産も開始しています。作業道の整備も進み、密度も高くなってきました。コンスタントに10,000m³を生産できる体制が確立できたかと思っています。ただ島内の森林のほとんどが個人所有であり、その多くが5ha未満の零細所有者です。

最近では森林の資産価値も低く、相続されても名義変更されていない土地が多々見られ、戦後に植林され、主伐期を迎えた森林を早急に皆伐、再造林したいのですが、所有者の同意を得るのに、なかなか難しいところがあります。高性能林業機械の導入は、木材生産をするにあたり、安全性や施策の効率化に、必要不可欠なことだと考えたからです。

現在組合の所有する機械は、フォワーダ1台、ハーベスタ2台、ザウルス2台、グラブ1台、そして今回住友建機から導入したスイングヤーダの計7台になります。過去にリースでスイングヤーダを使ったことがありますが、当時の機械には不具合が見られ、効率化ではな

く現場作業員の負担になってしまい使用を中止した経験がありました。しかし技術は日進月歩で進化していて、導入したスイングヤーダは、非常に使い勝手の良い機械になったと評価しています。

森林組合は、基本的に民間企業ではありません。組合員である山主さんたちのニーズに幅広く応える必要があると思います。個人の負担を減らし、森林を皆伐、再造林し、少しでも多くの利益を出す努力をすることが大切です。そのことを職員に口頭や文書で述べても理解しきれないと思うので、私は職員に『小さな山でいいから自分で山をひとつ買って、自分で植林して育ててみなさい』と言っています。そんなふうには山に正面から向き合い愛着を抱くことで、人に言われなくても、山や森を育てるとはどういうことが理解できると思っています。その心を持つことが隠岐の未来の森林を守ることに繋がると思います。」

●レポート 中四国統括部 広島支店 高橋 一郎

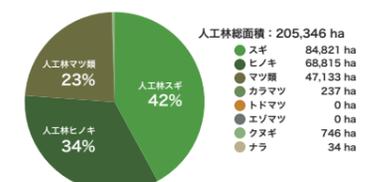


日野 勝幸 事業課長

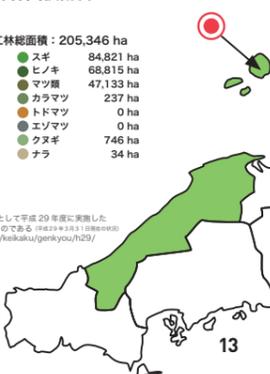


植林用として苗木（コンテナ苗）から育てている

島根県の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成29年度に実施した「森林資源実況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。[マツ]はマツ類を指す。引用元：林野庁 HP <http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genyou/h29/>



後列左から 春木 剛さん、斉藤 篤さん、湊 真二さん、戸田 満さん、田中 智展さん
前列左から 柳谷 満さん、宮崎 郁志さん、長澤 友宏さん、笠根 一樹さん

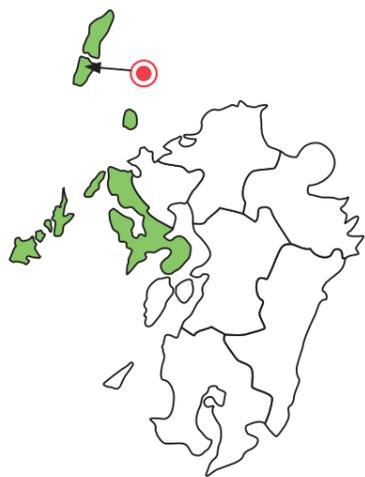




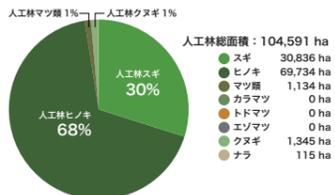
岸良 広大 代表取締役

有限会社つしまエコサービス

本社所在地：長崎県対馬市美津島町鶏知乙124-3
電話 0920-54-8188
設立 平成14年12月



長崎県の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事として平成20年度に実施した「森林資源調査調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。作成：国土院 林野庁 HP: <http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/20/>

対馬は、九州本土の北130kmの玄界灘に浮かぶ、南北82km東西18kmと細長い形状の、総延長900kmを越える複雑なりアス式海岸線を持つ長崎県に属する島である。ちなみに朝鮮半島へは海峡を挟んで50kmの距離にある。面積は日本第10位の696km²、人口は約30,000人、島全域が対馬市の1島1市体制で、その面積の約88%が山林で、耕作に適した平地は少なく、陸上交通も概して不便である。山林の本来の植生は広葉樹林だが、林業の植林による針葉樹林の面積が広がりがつある。

有限会社つしまエコサービスは、対馬島のほぼ中央、対馬空港の南に所在している。同社の沿革として、平成14年に先代 岸良秀行社長が8Tユニック車1台で、重機や機材の運搬を請け負う運送業を興したのが始まりである。その後、解体工事業や産業廃棄物処理など、顧客の要望に応える形で事業は多方面に着実に拡大されていった。平成18年、熊本で大学のバイオ関係の研究をされていた現社長が、故郷対馬にUターン入社してから同社は大きく変化していく。

その後、現在までのご活躍を代表取締役 岸良広大氏にお伺いした。「私が大学の在学中に父が起業したので、運送業という以外仕事のことは何も知りませんでした。仕事を手伝ってほしいと言われ、長男だったこともあり、いつかは親の面倒を見なければならぬと思っていましたので、便利な都会生活に未練もありましたが島に帰る決意をしました。入社時の弊社は、父一人が切り盛りする、本人の技術と顧客の信頼で成立しているだけの、会社としての展望も全く見えていない状況でした。単純な肉体を酷使する仕事は、なかなかモチベーションを維持することは困難で、いつか何か充実した仕事がしたいと考えていました。

対馬のような離島では、多くの不便や不平等が存在します。基本的に、多くの生活物資には海上輸送費が上乗せされ、その結果物価が高く車輦用の燃料なども本土よりかなり割高です。ある日父から、飲食系の事業者さんが、てんぷら油の廃棄費用として年間50万円支払っているという話を聞き、大学時代に学んだ知識からバイオディーゼル燃料の精製を着想し、入社3ヶ月後には、再生燃料プラント事業を立ち上げました。再生油を、軽油の代替燃料として自社の車輦に使うことで、本業に

も影響が出始めてきます。今まで、優秀なオペレーターによる丁寧で安全安心な仕事をする事で評価されていた運送事業に安価な燃料費を運送価格に反映させることで、業務が飛躍的な発展をみました。林業重機や機材の運搬だけの請負が、木材の運搬も依頼されはじめ、現在の業務比率は材の運搬が60~70%、重機の運搬は30~40%となっています。バイオディーゼル燃料事業は自社分と小学校の給食車用を使用する程度で10%にもなりません。今回念願だった最新鋭機SH135X-7グラップル仕様を新車で導入することができ、高い作業性能と快適さに喜んでます。昨年12月に社長に就任し事業を継承しましたが、将来的に地域のニーズにあった形で、柔軟性を持って地域にフィットした仕事がしたいと考えています。ただ、素材運搬の仕事だけでなく、木を切る仕事からの請負を誘っていただくこともあります。将来的にもその事業に進むつもりはありません。今までお世話になった方たちの競合相手になって、恩を仇で返すようなことはしたくないからです。島の若手の林業従事者が集まって明日の対馬の林業や、島の持つ色々な問題を解消するために定期的な会合も開き意見交換しています。今一番の関心は先日テレビ番組でも取り上げられた対馬への漂着ゴミの事です。海流や風の影響で漂着ゴミの量が対馬は日本で一番多く、環境省から県の予算も支給されていますが、半分も除去できていません。対馬の自然や水産業を守るには漂着するマイクロプラスチックゴミ問題を解決しないと成り立たないと考え、一般社団法人対馬CAPPAを立ち上げ、海岸清掃や発生抑制対策などさまざまな活動をしています。今後も環境対策の事業を計画して何とか対馬の力になりたいと思っています。」

●レポート九州統括部 福岡支店 渡邊 伸二



バイオディーゼル使用車



島で生きる。
そこから見える
日本と世界の明日。

SH135X-7 グラップル

